

松原のりかず 紹介発言11月議会開会

「脱原発を実現する」岐阜市民からの請願を紹介（11月26日・本会議）
請願第7号「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会実現の意見書採択を求める請願」の紹介をさせていただきます。

福島第一原発の事故後の対策も完了せず、事故原因すら不明確のままですが、全国では原発再稼働の動きが激しさを増しています。「電力不足になる」との「神話」は、「稼働原発ゼロ」でも深刻な電力不足に至らなかった事実が、その「嘘」を国民の目の前にさらしました。国も電力会社も稼働の大きな根拠を失っています。しかし、「原発事故は起きないとの神話」への何の反省もせず、避難計画も不十分なまま「再稼働」は数を増そうとしています。

岐阜市議会へ岐阜市民の別处雅樹さんから、浜岡原発や「もんじゅ」を廃炉にし、エネルギー政策転換を求める「脱原発」請願が出されました。

福島原発は、現在も汚染水問題が解決していません。四国の原発が事故になったとき、瀬戸内海の汚染はどうなるのか？ 原発近隣の半島住民の避難は、九州を想定されているようです。しかし、津波の被害は九州にも及びであろうことは、専門家でなくとも十分予測できます。避難計画の危うさが窺えます。

現政権も「もんじゅ」の問題は、安全性は勿論、維持費、財政面での問題を言い始めました。中日新聞は11月19日の社説で、「原子力は高くつく」「原発ゼロへ再考を」と論じています。報道によれば「もんじゅ」など核燃サイクルには12兆円以上が投じられました。撤回の国立競技場2520億円、国産ジェットMRJ開発費1800億円、「はやぶさ2」290億円。などの予算と比較して、その巨額が理解できます。

12兆円は、フィンランド国家予算なみとの事です。「もんじゅ」の冷却に使用するナトリウムは、固まらないように電熱で常時温める必要があり、1700tのナトリウムに年間一般家庭25000世帯分の電気が消費されています。電気代は月1億円との報道。20年間ほとんど稼働しないのに、1日5500万円の維持費。発電しない原発「もんじゅ」が月1億円の電気を消費している矛盾です。

皆様ご存知なように、「さよなら原発」1千万人署名という全国運動があります。その呼びかけ人は、大江健三郎、坂本龍一、澤地久枝、瀬戸内寂聴、内橋克人、鎌田慧、などの各氏です。この署名の訴えるところと、岐阜市民からの請願「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会実現の意見書採択を求める請願」の請願要旨は同じです。

多くの議員のご賛同をお願い申し上げ、請願紹介とさせていただきます。

連絡先 岐阜市会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500



松原のりかず
☎058-253-2500

白山自治会との飲食の市長分は返したか？

11月24日に無所属クラブと市長との懇談会が開かれました。その場で、松原のりかずは「白山自治会との懇親会で、市長が飲食された費用は自治会へ支払われたか？」と質問しました。無所属クラブは「市長の支払い」を文書で申し入れしていますが、24日現在まで回答の無いままでした。そこで、文書での回答を要求しました。懇談会の場での市長の回答は「口頭」でもありません。

27日、総務部門の議案精読の機会に、市長公室長に「白山問題」を質問しましたところ、「話題の飲食は私的な会であり返していない」(市長公室長)との口頭回答がされました。無所属クラブとしては

「回答」が先の新聞報道への「市長コメント」と矛盾していることを指摘したところから、「三省堂教科書問題の5万円」など市の体質が問われています。田中議員の無所属クラブ代表質問で本会議質問に継続されることになりました。

「知っていたら止めた」

自治会費で会食受け市長

中
日
新
聞
岐原市の白山自治会、会費から田中議員の飲食連合会の会長が、自
治会費の一部を細江
茂光市長との飲食費
などにあて、辞任し
た問題で、細江市長
は三十日の定例会
見で、飲食費を会長
に負担してもらった
ことを明らかに認め
た上で、「お金が、自治

中日新聞
2015年5月1日号より



松原のりかず
☎058-253-2500